



県議会報告 岡本かずやの「元気印」

四万十市事務所 :0880-34-3174 携帯:090-7573-8193

2024年3月24日 No.41

県の非核平和港湾が軍事利用されてしまう



練習前のまだ笑顔も2時間後には筋肉痛で疲れ顔に

和也の近況

二月定例議会が、三月二日に閉会しました。党県議団は、令和六年度の県一般会計予算・県国保事業特別会計予算・県部設置条例の一部を改正する条例の三つの議案に反対し、それ以外の議案すべてに賛成の立場を取りました。

スポーツで平和な世界を

県議会には、「野球同好会」があります。毎年四国四県で対抗試合を行っています。八年ぶりの練習参加です(左の写真)。野球部には、すべての会派の方が所属しています。思想・信条は違っても、全員一丸となり優勝目指して練習に励んでいます。「国際社会でも、スポーツの様に一丸となり、平和な世界をめざさねば」汗をかき、筋肉痛をこらえて考えていました。

県の港を国が軍事利用する協定を強要

「特定利用港湾」、今議会で白熱した議論が交わされました。分り易く解説すると、台湾有事などを想定し、米軍や自衛隊基地に対する軍事物資輸送(兵站)を含む、自衛隊、海上保安庁が宿毛湾港、須崎港、高知港の利用をしやすいとする為に、県民の税金を使って整備する仕組みをつくることです。県の港を軍事利用することは、県が高知新港開港に当たり港の「非核平和利用」を県議会として全会一致で決めており、これに反する事になります。ましてや、高知港には世界からクルーズ船に乗って大勢の観光客がきます。軍事利用を進めて国同士の緊張を高めるのではなく、観光客や経済・文化交流で賑わう県の海の窓口にするべきです。

自民党が乗ってこれなかった意見書

毎議会、会派から県民の国や行政機関に対する要望として、意見書が提出されます。今議会でも日本共産党が意見書案を各会派に事前にまわして、意見調整を行いました。その中で、食料・農業・農村基本法の改正に当たり、国内農業の基盤強化を図ることを求める」の出身について、「農政の抜本的転換が求められる」を「農政の抜本的な強化が求められる」に「転換」を「強化」に変えられないかと自民党会派から要望が。しかし、今の日本の農政はこれまでのやり方を転換しなければ、食料自給や担い手不足を解決する事は難しいと拒否しました。